

えた回答率が高い教区の中に、いずれも含まれている。平均で見ても65・4%の寺院が「改築等が必要」であり、61・8%が「見通しが立っていない」と回答しており、伽藍を修復したり新築したりすることの困難さが窺える。もちろん、見通しが立たないことの主たる要因は経済的なものであることは言を俟たない。さらに、近年、自然災害による伽藍損

このような状況の中、宗門総合振興計画「基本方針Ⅲ」の中で「持続可能な寺院のあり方を検討、運用」する取り組みが示され、それを受けて本堂・納骨堂・門徒会館などの寺院施設新築計画検討に資する「多目的礼拝施設モデル」について調査を進めてきた。

低予算で質の良い施設を建設することが可能かということで、今回はハウスメーカー各社に「2,000万円程度から資金計画できる」礼拝施設を建築できな

「持続可能な寺院のあり方」

壊の事例が増加している。自然災害の場合には、本堂などを再建しようとしても、周辺住民が同様に被災しており、再建に必要な懇志をご依頼することが極めて困難な状況になってしまふ。また、人口減少によって門徒戸数が大きく減少している地域や、寺院が立地する地域の住民が高齢化している地域では、やはり修復・再建の目処が立ちにくい。

①ダイワハウスの提案
ダイワハウスからは、「鉄骨造」（建物の基本部分が鉄骨）の「両方向ブレース架構」（斜めに強度を高める部材が入って

て、情報提供する。今回は既に提案が届いた二社について、情報提供する。

なお、依頼する会社については持続可能な寺院運営という視点から継続的なサポートが可能な業者ということで、「一部上場企業」及び「経営業務の管理責任者」が在籍している企業体であることを基本とし、「住宅完成保証制度」があることも条件とした。

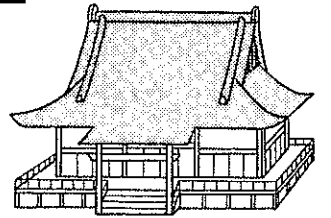
いかということに依頼をした。

▽各社からの提案について
提案を依頼する際に左記の条件を提示した。

- (1) 建築面積：約100平米（30坪程度）
- (2) 仕様：平屋、水回り無し
- (3) 既存施設の撤却の経費は除く
- (4) 屋内施設の経費は含まない

維持可能な伽藍建築の可能性

浄土真宗本願寺派総合研究所
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

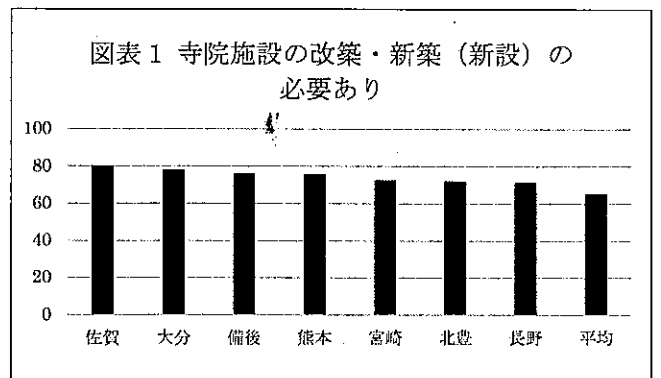


伽藍改築・新築の難しさ

お寺の本堂は、街や村の象徴的な建物として、荘重な伽藍を建築し維持されてきた。各地の寺院に調査に何うと、その立派な伽藍の威容に圧倒された経験は一度や二度ではない。当地の自然の特性を採り入れ、建築技術の粋を極めて建立された伽藍は、まさに地域の文化を代表する建築物と言つてよい。また、数百年前に建立に至った歴史的経緯を振り返れば、念仏繁盛への地域住民の思いがこめられた建築物であり、伽藍の維持が宗教学法に課せられた重要な責務の一つであろうと感ぜられる。

しかし、残念ながら長年、自然の力にさらされた結果、各地の寺院で伽藍の修復や再建の必要性が生じている。その状況については、第10回宗勢基本調査で明らかにした。

図表1は、「寺院施設の改築・新築（新設）」が必要ですか」と質問した結果



である。平均でも65・4%の寺院が必要と答えている。また佐賀教区では80・2%、大分教区では78・2%が必要と回答している。また、関連して次の図表を見ていただきたい。

図表2は、関連した質問であり、改築等の見通しが立っていない寺院であり、見通しが立っていないという回答率が高い教区五つは、先の「必要があり」と答



外観



内観

大地震の揺れに耐える
強固な一体構造

建物参考価格(税別)
2,480万円

※入母屋風換気(4アクション)

建築面積	125.04㎡ (37.83坪)
延床面積	118.42㎡ (35.82坪)



【1階平面図】

※一部図形はイメージを含みます。内容・仕様・設備の一部については、技術改良のため予告なく一部変更する場合があります。掲載されている写真は実際とは異なる場合があります。

MISAWA ミサワホーム近畿 法人推進室

企業・設計/ミサワホーム近畿 京都支店


〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目2番2号 近鉄堂島ビル13階

フリーコール **0120-368-330**


受付時間 10:00~19:00 ※火・水曜定休

【メールでのお問い合わせ】houjin_kinki@home.misawa.co.jp





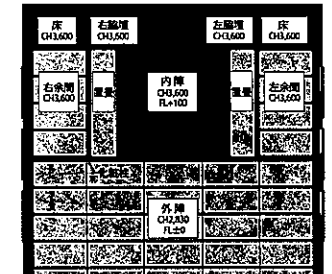
外観



内観

建物本体価格(税込)
3,132万円

建築面積	106.11㎡ (32.09坪)
延床面積	98.01㎡ (29.64坪)



【1階平面図】

※掲載の完成予想図・間取図は設計図書に基づき描き起こしたもので実際とは多少異なる場合があります。内容・仕様・設備の一部については、技術改良のため予告なく一部変更する場合があります。

Daiwa House. 大和ハウス工業株式会社 本店

大阪市北区梅田3丁目3番5号 〒530-0001 Tel 06-6346-2111 Fax 06-6342-1399

建設業許可番号 国土交通大臣許可(特-27-28)第5279号

宅地建物取引業者免許番号 国土交通大臣(15)第245号

(一社)大和府宅地建物取引業協会会員 / (公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

www.daiwahouse.co.jp

お問い合わせは 本店 建築相談部

06-6342-1251

営業時間 9:00AM~6:00PM / 土・日・祝日定休

ダイヤハウス

営業本部 daiwahouse.co.jp

上記2社の詳しい内容はホームページをご覧ください <http://www.hongwanji.or.jp>

浄土真宗本願寺派 TOPページ

寺院振興支援対策 (過疎対策について)

寺院施設に関する 情報提供

提案業者 資料請求先

いる構造)で2,900万円を参考価格として提案があった。木造より一般に鉄骨造は耐震性が強くなっているが、斜めに部材が入ることにより一層の強度が図られている。外陣は二十五畳、内陣と右余間、左余間を足すと外陣と同じ二十五畳の大きさになっている。玄関ステップから直接外陣へ入る造りになっており、まさしくコンパクトで利用可能な空間を広く取った構造となっている。伝統的な瓦ではなく「金属瓦」を使用し、費用の削減と耐久度の強化が図られている。

②ミサワホームの提案

ミサワホームからは、MJ Wood 構造による2,480万円での提案があった。こちらは、本堂建築では伝統的な造りである木造の建築。MJはメタルジョイントの省略で、木と木とを、防さび加工された金属で接合することによって、木造建築の1.7倍の強度を達成している。木造は耐震性が他の構造に比べ脆弱という問題があるが、その弱点を補いつ

つ、通気性や風合い、温もりといった木造建築物の良さを活かした造りとなっている。また、遮熱瓦・高断熱樹脂サッシを使用し本堂内部の快適な室温維持が図られている。遮熱瓦は屋根に止める形式なので、暴風でも瓦が落ちにくいという性質を持っている。延床面積が35.82坪で外陣は二十六畳であり、幅が六間余り、天井までの高さは2m40cmでおよそ一般的な家屋と同じ高さとなっている。なお、両社とも工業化量を使用しているが、樹脂技術等の進歩により、従来のように畳表にイ草、畳床に藁を原料とせず、工業製品を使用し、い草に似た風合いやクッション性を出し、かつ防ダニ効果等の機能を持った畳のことである。提案ではいずれも畳表はい草を使用している。

今回は、二社からの提案についてご紹介したが、この二つの提案を比較しても、多様なモデルを見ることができ、建築方法や材料の進歩により、これから

の伽藍は、立地や本堂の利用のあり方などによって、建築様式を選択することができる時代になっている。かつ、今回の目的は「低コスト」で「自然災害にも強い」という点である。

メーカーの方からお話を聞くと、現代の建造物の発展は、建築に用いる材料の発展が一番大きいという。従来の本堂建築にはなかった建築材料が用いられ、断熱や耐震という面で大きな強みを発揮するようになってきている。もちろん本稿は従来の伝統的な本堂建築を否定するものではない。伝統的な建築の素晴らしさ、その重厚さが門徒さんの心に宗教的な雰囲気を感じていただけてきた点は、重要な要素である。一方で、今回は寺院や周辺の状況がそれを許さない場合があることを考慮し、状況への対応の一提案として紹介したものである。

なお、今回紹介したメーカー以外の提案も届きつつあり、それは別の機会にご紹介したい。